

2008年 早月川下流部の魚類調査

稲村 修・不破光大（魚津水族館）

Fishes living at the down stream of Hayatsuki River,

Toyama Prefecture, Japan 2008

Osamu INAMURA Mitsuhiko FUWA

Uozu Aquarium

はじめに

早月川は、北アルプスの劔岳（標高 2999m）周辺を水源とする二級河川である。劔岳山頂付近から河口まで僅か約 37km しかなく、日本でも屈指の急流河川である。源流域ではブナクラ谷、白萩谷、池の谷、立山川などが馬場島で合流し早月川と名を変える。馬場島から下流では小又川や鍋増谷などの谷水を集め、河口から約 10km 上流の蓑輪地区で右岸から小早月川が合流する。蓑輪付近が早月川の作った扇状地の頂点部に当たる。ここより下流はいくらか流れがゆるくなるが、勾配は急なため、多くの河川で見られるような流れのゆるい下流部は存在せず、中流域の形を保ったまま海へと流れ込む。

蓑輪地区には堰堤があり、農業用に大量の水が取水されている。また、河床は砂礫で浸透性が高く、水量の少ない夏期には下流部で渇水となることも少なくない。

早月川の魚類調査の記録は少なく、過去の記録（稲村，2008）では6科17種で、近隣を流れる河川に比べ魚類相は貧しい。富山県内でも最も魚類相の貧弱な河川といえる。これは、前述の河川形態によるものと考えられる。

調査方法

調査では釣りや手ダモを用いて採集した。原則として、採集した魚類はその場で同定し、個体数・全長を記録した後放流した。

調査日および地点

手ダモを用いた基本調査は、平成 20 年（2008）8月3日、12月2日の2回で、補助調査として6月2日・3日・10日・13日・25日に釣り採集を行った。水温は8月3日が 25.2℃で、12月2日が 12.0℃であった。

調査は魚津水族館周辺の魚津市三ヶ地区で行った。早月橋から下流では川筋が右岸側と左岸側に分かれ、基本調査は左岸を対象とした（写真1）。補助調査は、早月橋から早月大橋の間の右岸側で行った。各調査地点を写真2に示した。



写真1：左岸側の川筋



写真2：調査地点

出現種

以下に種ごとの確認状況等を記し、表1に過去の記録（稲村，2008）と比較し一覧で示した。

アユ科 Plecoglossidae

アユ

Plecoglossus altivelis altivelis

Temminck et Schlegel

8月3日の調査で確認された。河口部右岸側は減水しているものの流れはあった。左岸側は濁水で大きな溜まりを形成していた。この溜まりの中に、全長10 cm程の個体が多数とり残されていた。

サケ科 Salmonidae

ニジマス

Oncorhynchus mykiss(Walbaum)

6月13日に早月大橋下で釣りにて全長28 cmの個体が1尾採集された。早月大橋の下にはコンクリートブロックが敷かれ、その下流に小さな深みが形成されていた。早

月川でニジマスの放流を行っているかは不明である。

ヤマメ

Oncorhynchus masou masou(Brevoort)

6月2日・3日・10・13日・25日に釣りで採集された。6月13日は2個体、そのほかの日は各1個体が採集された。いずれも全長28～30 cm程の個体で、銀毛化しており降海型（サクラマス）の可能性もある。



写真上の個体はニジマス。

サケ（シロザケ）

Oncorhynchus keta(Walbaum)

毎年10月に入ると早月川河口近くにサケの築が設置される。呉東内水面漁業協同組合では遡上してきたサケを捕獲、採卵し種苗生産している。この季節に河口へ行くと多数のサケを目にすることができる。



コイ科 Cyprinidae

タカハヤ

Moroco jouyi(Jordan et Snyder)

12月2日の調査で確認された。右岸側の水は濁っていたが、左岸側は透明であった。タカハヤが確認されたのは枯れたツルヨシが浸かる泥地で全長40mmと36mmの2個体が採集された。

コイ

Cyprinus carpio Linnaeus

8月3日の調査で全長5cm程のニシキゴイが1個体目視確認された。

ドジョウ科 Cobitidae

シマドジョウ

Cobitis biwae(Jordan et Snyder)

12月2日の調査でタカハヤと同じ泥地において、全長56mmと60mmの2個体が確認された。

ハゼ科 Gobiidae

ゴクラクハゼ

Rhinogobius giurinus (Rutter)

8月3日の調査でゴクラクハゼに類似したハゼ科魚類が1個体採集された。採集時には小さかったので飼育して同定した。過去に早月川でゴクラクハゼの記録はない。



シマヨシノボリ

Rhinogobius sp. CB

8月3日に、全長62mmと83mmの2個体が採集された。12月2日は、水深15cm以下の浅場で全長30~75mmの12個体が採集された。

トウヨシノボリ

Rhinogobius sp. OR

12月2日の調査で全長39~78mmの5個体が確認された。シマヨシノボリと同時に採集されたが、8月の調査では、確認されなかった。

ヌマチチブ

Tridentiger brevispinis Katsuyama, Arai and Nakamura

8月3日の調査で全長22mmの2個体が確認された。水深が30cm程の溜まりの中の大きな石(直径約40cm)の陰に潜んでいた。

スミウキゴリ

Gymnogobius petschiliensis (Rendahl)

12月2日の調査で全長62~78mmの5個体が、タカハヤ、シマドジョウと同じく枯れたツルヨシが浸かっている草陰で確認された。

ミミズハゼ

Luciogobius guttatus Gill

12月2日の調査で全長50~66mmの3個体が確認された。小さな浅瀬の砂利を崩すように探り採集した。

カジカ科 Cottidae

アユカケ

Cottus kazika Jordan and Starks

8月3日に全長5 cm程の1個体が確認された。溜まりの中の水深約90 cmのところで見ついているのが確認された。

カンキョウカジカ

Cottus hangiongensis Mori

8月3日の調査で30~100 mmの3個体が確認された。溜まりになっている上流には幅30 cm程の小さな流れ込みがあり、その直下で全長100 mmの1個体がシマヨシノボリと一緒に採集された。

結果と考察

今回の調査で確認されたのは6科15種であった。新たに確認された魚種はコイ科のコイ、ドジョウ科のシマドジョウ、ハゼ科のスミウキゴリ、ゴクラクハゼであった。

コイはニシキゴイの幼魚で、人為的に放流されたものと考えられる。

過去にウキゴリの記録はあるが、背鰭後端に黒色斑がないことでスミウキゴリと同定した。スミウキゴリは下流域から河口域に生息することが知られている。一般に河口域での採集は水量が多いことから困難であるが、減水している時期であったので確認できたものと考えられる。

ゴクラクハゼに関しては採集時に同定が困難な大きさ（全長27 mm）であったため、魚津水族館へ持ち帰り同定が可能な大きさになるまで飼育した。2009年6月29日に再度、本個体（全長87.7 mm）の同定を試みた結果、ゴクラクハゼの特徴である第2背鰭は1棘9軟条以下であること、項部の鱗

域は眼の後端付近に達すること（中坊, 2000）からゴクラクハゼであると同定した。なお、本個体はホルマリン標本として当館で保存している。



採集年月日：2008年8月3日

採集地：魚津市早月川三ヶ地区左岸

採集者：不破 光大

全長 87.7 mm, 体長 70.8 mm

頭長 22.0 mm, 体高 12.7 mm

体重 8.6 g

鰭条数：背鰭 VI- I, 9 ; 臀鰭 I, 9

胸鰭 19 ; 腹鰭 5

おわりに

過去に記録されている6科17種のうち、今回の調査で確認できたのは6科15種で、ニッコウイワナ、アジメドジョウ、カジカ（大卵型）など、中・上流域に生息する種は確認できなかった。今後は、葦輪堰堤上部の中流域と、伊折・馬場島などの上流域の魚類調査に加え、小早月川などの支流でも詳細な調査を行ってきたい。

参考文献

稲村 修, 2008. 早月川のさかな. 編集.
早月川風土記の会. pp. 17. 早月川風土記.

- 稲村 修, 1993. 片貝川、角川、早月川水系と魚たち. pp. 53-73. 川にすむハゼ—ヨシノボリ類とウキゴリ類. pp. 205-214. 解説. 田中晋 (編著者). 富山の川と湖の魚たち.
- 岩田明久, 1989. スミウキゴリ. 解説. 川那部浩哉, 水野信彦 (編・監修). 山溪カラー名鑑日本の淡水魚, pp. 622-623. 山と溪谷社. 東京.
- 桜井淳史, 渡辺昌和 2007. 淡水魚ガイドブック. 株式会社永岡書店. 東京.
- 辻 幸一, 1989. ゴクラクハゼ. 解説. 川那部浩哉, 水野信彦 (編・監修). 山溪カラー名鑑日本の淡水魚, pp. 585. 山と溪谷社. 東京.
- 中坊徹次. 2000. ゴクラクハゼ 解説, 中坊徹次 編. 日本産 魚類検索 全種の同定 第二版, pp. 1251. 東海大学出版会.
- 南部久男編著, 1989. 田中晋淡水魚コレクション. 富山市科学文化センター収蔵目録第3号, 富山.
- 堀田 満, 1973. カラー自然ガイド, 水辺の植物. 株式会社保育社.
- 宮地傳三郎, 川那部浩哉, 水野信彦. 共著. 1963. 原色日本淡水魚図鑑. 株式会社保育社.